

# 研修報告 F 2班グループ

## 大学の役割

・大学の役割として、まず班員全員で建学の精神、理念の説明を行い改めて大学の必要性を確認した。社会が求めていることとは別に、大学としては最終的に何が目標なのか、本来の目的を確認しその重要性をお互いに認識し合った。

・時代の変化に合わせて社会貢献できる「**人間性の形成**」が必要となる。

→4年生大学において、専門性以上に必要な要綱となる。

## 班のテーマ設定

・大学の建学の精神・理念と社会が大学に求めることに共通点を見つけ出し、今大学職員が何をしなければならないのかを考える必要がある。

→私たちの班のテーマとして「**学生の意識改革**」と設定した。社会で活躍できる人材と学生の可能性との関連性について触れた。

→そのために下記の2点を学生の身に付けることを目標とする。

### ①社会が求めている「核」となる人材を育成する

→社会では専門大学・短期大学以上に総合力が求められているため、時代のニーズ合わせた柔軟性が必要不可欠となる。

### ②大学生活を通じて若者の可能性を引き出す

→・多くの大学生が目標を持たずに生活していること

・自分の能力を十分に理解しきれていないこと

→2点の可能性を見つけるための機会を与えていく必要がある。

## 大学の現状

・時代の変化にともない、現在、主体的に考えられる学生を社会は求めているが、主体性のある学生を育成する効果的な講義がない。

+講義だけでは育成できない察知力・行動力と言った「**社会を読む力**」が欠けており、今後その力を育成していく必要がある。

・学生の成長の場を提供してはいるものの、学生の積極性が欠けており、参加できていないという問題点がある。原因としては大学側が学生に有益性を十分に説明できていない。

→学生たちの可能性を発見するためにも、学生に対して機会の提供（インターンシップ等）を行っていく必要がある。

## 問題点の深堀

①行動力、察知力の欠如。

大学の現状から問題点の確認・整理を行い、以下の結論に至った。

- ・察知力、行動力「社会を読む力」が足りていない
  - 現在、学生が受けている授業は座学のものが多いため受動的な姿勢で授業を受けている
  - ∴グループワーク等、実践的な課外活動を取り入れていく必要あり。

②学生の可能性が未だ見いだせていない

→コミュニケーション能力の欠如や、知己が出来ていないといったことが原因であり、就職活動だけが目標となっている学生が非常に多い。

## 具体的提案

- ・講義だけでは補えない「察知力・行動力」を特別講義・フィールドワーク型の授業を増加、かつ必修化することで養成する。また教員にもグループワークが有用なものになるようしっかりと教育を行う。
  - +他学部と連携し、コミュニティの輪を広げてもらう。
- ・グループワーク等を通じて自己分析を行い自らの可能性を見つける。
  - 同時にコミュニケーション能力にも磨きをかけてもらう。

→ポータルサイトを活用した新しいシステムの導入を提案。

- ・ポータルサイトを活用して、フィールドワークの利便性をはかる。
    - 掲示板を活用し、同じ志を持つ学生同士と一緒にグループワークをし、新しいコミュニティを作る。
  - ・ポータルサイトを通じて、在学生在が気軽にOBOG、先輩学生、教職員と連絡を取りあえるコミュニケーションツールを作成する。就職活動だけでなく、今後自分の将来設計としても使うことができるようなシステムを目指す。
- ※ 利便性を追求し、誰もが簡単に使えるツールを目標とする。同時に多くの学生・教員に使ってもらえるよう周知を行う。

## まとめ

主体的に学ぶ姿勢を身に付けるためにも、自らが考え行動する「機会」を大学職員が学生に提供していくことが非常に重要である。今後大学全体を見ていく中で、学生の成長を見守り、学生が自発的に行動できる環境づくりを行っていく、よりよい大学作りに励んでいく必要がある。